

黄ばらとバラード

「美しい花には、トゲがある…」「可憐な花には、毒が…」そんな花といえば、「ばら」と「すずらん」か。

美女に「我を忘れるほど、のめり込んで、痛い目にあわないように…」といった論しのフレーズだ。

華やかな「ばら」にふれると、油断をすれば、トゲで痛い思いをする。

芳香な「すずらん」には毒性があつて、花や根に、死にいたる成分が含まれているという（心臓に悪影響の）。…その花を活けた水を誤飲して命を落とした人もいる。

でも…しかし、神代の昔から、それらの花々は、万人に愛されてきたのだ。

「赤いばら」といえば、オペラの「カルメン」、「オペラ座の怪人」といった名作が思い浮かんでこよう。

「すずらん」は、かの偉大なクリエーター「クリスチャン・ディオール」が、こよなく愛したことも知られている。

そろそろ、レイニーシーズンに入る。

6月の第2日曜日  
は、「花の日」(2012  
年は10日)。欧米  
では「バラの日曜日」  
と親しまれ、子供た  
ちが、花束を礼拝堂  
に飾った後、病院や

福祉施設に届ける。

そして「第3日曜日(17日)」は、「父の日」。  
…「ダンディパパ」「フェミニンなお父さん」「ジエン  
トリーなお父さま」「マイ・ダディ！」その他と  
人それぞれに、いろんな「お父さま」がいよう。  
「辛口パパ」と「甘口パパ」がいて、お酒もスイー  
ツもいけるお父さんもいる。

感謝の気持ちをギフトで代弁するときには、  
「黄ばら」を忘れないで…！

父の日の「マスコットフラワー」として、黄ばら  
が、わが国に浸透するまでには15年ほどの時  
を必要とした。それまでは、黄色い「リボン」や  
「花」なら何でもよかった。

黄ばらに着地した理由はさておき、英国をは  
じめ「守護色」が「黄色」…というお国は少なく  
ない。

「播産館」に足を運んで、ギフト用の「黄色い  
グッズ」を探してみよう。

…婦人たちも「バラ」の月にあやかつて薔薇模  
様の「姫革細工」を、ご自分への「ごほうび」にど  
うぞ。…梅雨空の合間には、いろんな「ばらの  
バラード」が流れる。

…商いのエッセイスト  
ドミニカ代表

